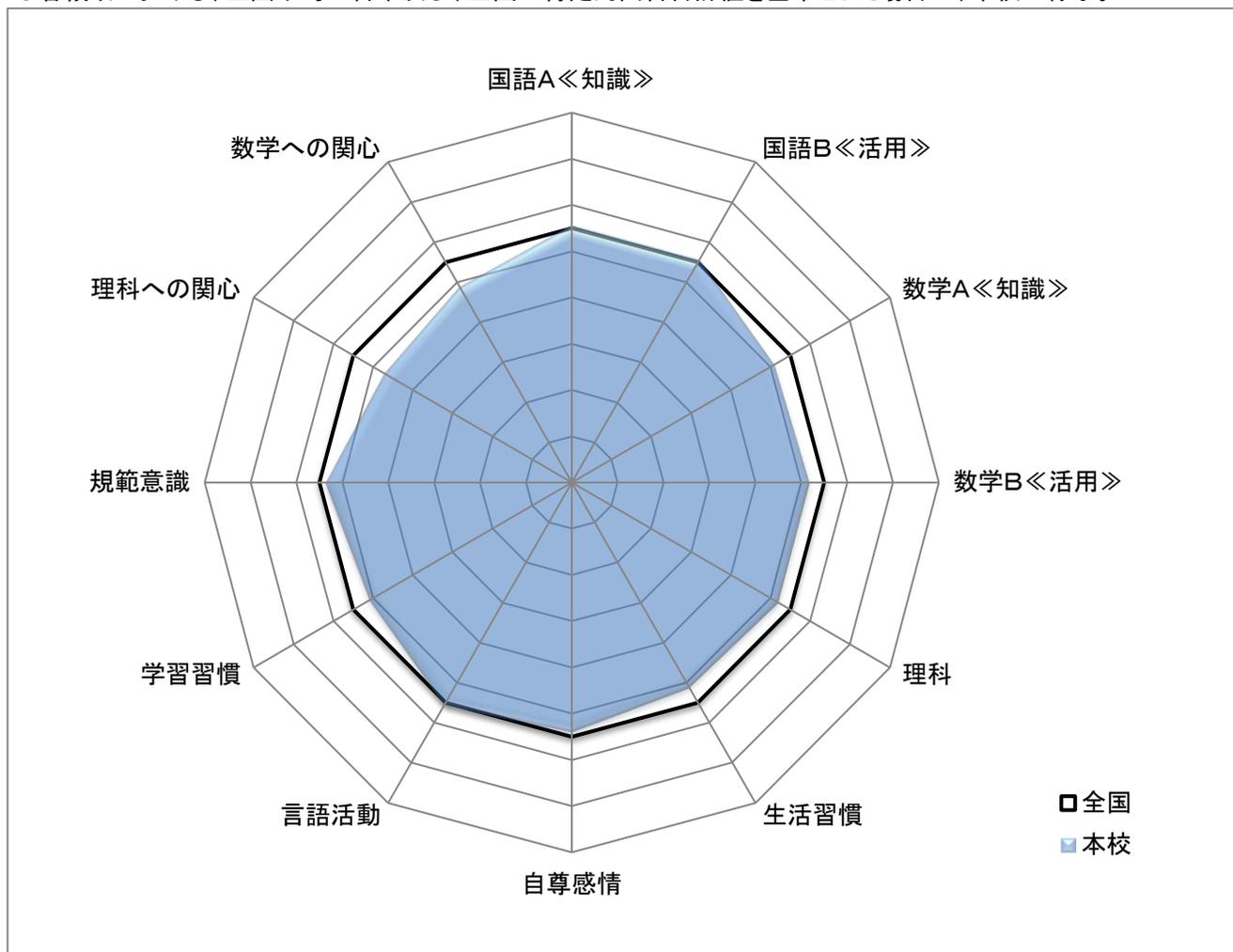


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

「家で、学校の宿題をしていますか」の設問に96.5%が肯定的な回答をしたが、「自分で計画を立てて勉強していますか」の設問に34.8%しか肯定的な回答をしていない。主体的に学習に取り組む生徒を育てることが課題である。理科では、理科の勉強が大切だと思う生徒の割合と理科が好きである割合が一致しているのに対し、数学では大切だ、できるようになりたいが80%を超えているにもかかわらず、数学が好きと答えた生徒が半数以下であった。

《授業改善のポイント》

特に、数学や理科において、基礎・基本の定着を図るために授業における反復練習、確認テスト、教え合いグループ学習を積極的に取り入れていく。また、漢字コンテスト、スペリングコンテストを実施してきたが、数学コンテストを3学期に実施して学力の向上を図る。また、すべての教科指導で、適切な宿題は出していくが、自ら計画を立て学習に取り組むよう支援していく。将来の夢や目標を持っている生徒の割合が全国より10パーセント低いので、キャリア教育の充実も図りながら、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図る。

《チャートの特徴》

「規範意識」「言語活動」「自尊感情」については、肯定的な回答は全国平均とほぼ同じである。「生活習慣」および「学習習慣」の肯定的な回答は全国平均値より低い。国語は、国語A《知識》、国語B《活用》ともに正答率が全国を上回っている。数学は、「数学への関心」が全国平均よりかなり低い。数学A《知識》は正答率で5.1ポイント、数学B《活用》は正答率で2.9ポイント平均を下回っているものの、国語と数学については、昨年度の都の学力調査時よりは向上している。

《家庭・地域への働きかけ》

生徒の学習の様子や普段の取り組みを見ていただくため、学校公開に来校者数を増やす工夫をしていく。また、宿題などの定着が図れるよう保護者に学年だよりや学校だよりを通じて協力依頼をしていく。